達古袋を絵図と共に歩く

主催：達古袋の歴史を考える：「達古袋村絵図をながめよう会」

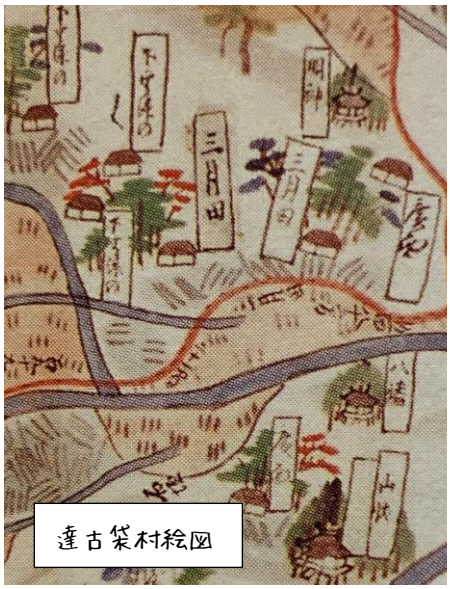
日　　時　11月19日(日)　雨天決行

10：00 ～ 11：40

集合場所　達古袋小学校 校庭

定　　員　15名　　参加費　無料

申込締切日 11/15　※雨天の場合校舎で開催

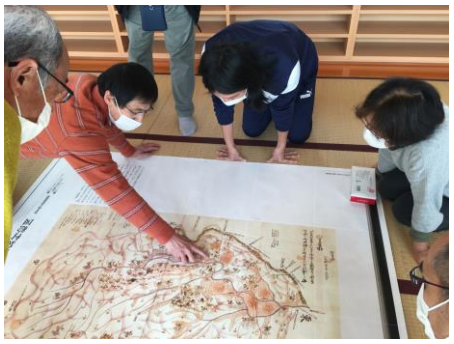

達古袋村絵図

江戸時代の終わりごろ、約200年前に一関藩により作成された村絵図があります。そのうちの一つ達古袋村絵図に描かれた「八幡（神社）」や「明神」を巡ります。

一昨年『達古袋の歴史を考える』プロジェクトを立ち上げ、第一回第二回と「達古袋村絵図をながめよう会」を開催しました。残念ながら、コロナ禍のため、規模を縮小して行わざるをえませんでした。

今年こそはと、広く声をかけて開催いたします。雨天の場合は、校舎内で絵図を眺めながらの開催となります。

皆さまのご参加をお待ちしております。



↓岩手日日「第２回目達古袋村絵図をながめよう会」

達古袋村絵図参考に

萩荘 参加者が神社、祠を巡る

江戸時代の村絵図を参考に道をたどるイベント「達古袋を絵図と共に歩く」は23日、一関市萩荘の旧達古袋小学校を発着点に開かれ、参加者が神社と祠を巡って歴史ロマンに浸った。

2021年に始まった達古袋の歴史を考えるプロジェクトの一環で、第1弾「達古袋村絵図をながめよう会」に続く第2弾として企画された。市内外から7人が参加。萩荘在住でNPO法人一関のなかなか遺産を考える会理事長の佐藤武生さん（63）が案内した。

参加者は一関藩によって作成された達古袋村絵図と現代の地図を照らし合わせ、旧達古袋小の近くにある八幡神社と、村絵図に「明神」と記されている祠に向かった。八幡神社では諸説ある由緒、祭神、歴代の宮司などを佐藤さんが説明。境内では、同校創立期に教育で大きな役割を果たした医師・村上良哉をたたえて1893（明治26）年に建てられた石碑も眺めた。

好天に恵まれ、参加者は約1時間歩いて地域史に触れた。宮城県栗原市から参加した江口拓也さん（55）は「旧達古袋小に集う人たちと会っていても周辺を歩くことは意外となかったので、すごく楽しみにしてきた。話を聞きながら歩いてみて地域の歴史に理解が深まった」と喜んでいた。

「大木神楽の舞はしなやかで美しく、覚えるのが大変だった。神楽など地域に伝わる伝統の大切さを知ってほしい」と願っていた。

八幡神社で佐藤理事長（中央）の説明を聞く参加者

＜ 申込書　FAX：0191-29-2583 ＞　11/19(日)「達古袋を絵図と共に歩く」に参加します。

お名前　　お電話